

宮崎県の発生農場にかかる疫学調査チームの調査概要
(平成26年12月16日実施)

平成26年12月16日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、山間部の谷川（祝子川）^{ほうりがわ}沿いに位置し、鶏舎は川岸から約20mの距離にある。調査時には、同川に、水鳥は確認されなかった。
- ② 発生農場には、2棟の鶏舎があるが、発生鶏舎は、農場入口から向かって右側に位置しており、他方の鶏舎は使用されていなかった。
- ③ 農場近隣の川の上流にダム湖があったが、調査時には、水鳥は確認されなかった。

2 管理者及び従業員

- ① 農場主によると、農場及び鶏舎への出入りに当たり、それぞれ、長靴を交換するとともに、踏込み消毒槽を用いた長靴の消毒を実施している。
- ② 発生農場は、農場主及びその家族の2名により管理されており、最近、海外への渡航歴はない。

3 鶏舎の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、タンク上部に蓋がなされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 給与水は、地下水がポンプにより汲み上げられ、鶏舎横のタンクに貯水され、鶏舎内に配水されている。給与水のラインは外部との接触はない構造であった。
- ③ 車両の農場への出入りに当たっては、車両用タイヤ消毒槽によるタイヤ消毒及び動力噴霧による消毒が実施されていた。
- ④ 農場主によると、消石灰は、特に冬季において、月に2回程度、鶏舎周辺、通路等に散布している。
- ⑤ 農場主によると、鶏糞は、廃鶏搬出時に搬出されているが、本年1月以降の搬出はない。

4 野鳥・獣害対策

- ① 鶏舎は、壁面に金網（マス目は1.2cm）、その外側にロールカーテンが設置され、冬期には原則ロールカーテンは降ろされている。金網、壁面等には、野鳥等が侵入できるような破損箇所は確認されなかった。
- ② 鶏舎出入口の扉に、破損等は確認されなかった。なお、換気のため、天窓が開放されるが、野鳥等の侵入対策用に網が設置されていた。
- ③ 農場主によると、鶏舎内で野鳥を見かけたことはない。
- ④ 農場主によると、ネズミの対策として、鶏舎内に捕鼠器（粘着式・かご式）を設置しており、鶏舎内でネズミの糞を見かけたこともある。

5 死亡鶏の取扱い

農場主によると、通常、死亡鶏は、農場敷地内の焼却炉にて焼却処理される。